

2013年度

政治経済学・経済史学会
秋季学術大会・総会

プログラム

2013年10月19日(土)・20日(日)

下関市立大学

〒751-8510 山口県下関市大学町2-1-1

政治経済学・経済史学会

< <http://seikeisi.ssoj.info/> >

政治経済学・経済史学会秋季学術大会のご案内

2013年7月31日

会 員 各 位

政治経済学・経済史学会2013年度秋季学術大会および総会を、10月19日(土)・20日(日)の両日にわたって、下関市立大学において下記のとおり開催いたします。学会活動の一層の活発化と会員相互の交流深化のために、みなさまの積極的なご参加をお願いいたします。政治経済学・経済史学会

お 願 い

1. 同封の葉書きにて、**9月2日(月)まで**にお返事下さい。
2. 出席のお返事をいただいた方には、『報告要旨集』(2,000円)を10月上旬に郵送します。代金は会費と同様の方法でお支払いいただきます。
3. 参加諸経費は以下の通りです。同封葉書きで予約のうえ、大会当日、受付でお支払い下さい。なお、領収証をご希望の方は受付までお申し出下さい。
大会参加費 一般1,000円、学生無料
報告要旨集 2,500円(当日売りの場合)
懇親会費 一般5,000円、学生2,500円
昼食 10月19日・20日、両日とも、昼食時間帯は学内生協食堂(厚生会館1階)が営業しておりますので、ご利用ください。
4. 宿泊については、下関市、北九州市内のホテルを中心にして、各自でご手配ください。
5. 大会関係の情報は、学会ホームページで随時お知らせしますので、ご確認下さい。
6. 本年度は、大会前後に、下記の2つの企画がございます。日程は以下の通りですので、奮ってご参加ください。
(a)10月18日(金)夕刻に、下関にて若手研究者の交流の場を設けます(研究委員会主催)。詳細は、学会ホームページをご覧ください。
(b)10月21日(月)に、フィールドワークを実施します(開催校主催)。詳細は、同封の書類及び、学会ホームページをご覧ください。
*政治経済学・経済史学会ホームページ <http://seikeisi.ssoj.info/>

第 1 日 10月19日(土) 【受付：8：30～】

パネル・ディスカッション①	A 講義棟	A-103	9：00～11：30
中・東欧における想像と創造の国民音楽を比較する			
報告1. 中・東欧における国民音楽の比較			
－音楽データベース活用の可能性－		京都大学	福田 宏
報告2. マックス・ブロートと国民音楽－チェコからイスラエルへ－		京都大学	池田 あいの
報告3. ソ連国歌の誕生－社会主義における国家と国歌－		一橋大学大学院	神竹 喜重子
コメント		日本学術振興会特別研究員	左近 幸村
司会		東京大学	小野塚 知二

パネル・ディスカッション②	A 講義棟	A-104	9:00~11:30
「いのち」「生存」「福祉」の関係史—方法的提言—			
問題提起と司会		関西学院大学	高岡裕之
報告1. 歴史のなかの「いのち」への視点			
—日本近世社会の「家」と「いのち」を中心に—		岡山大学客員研究員	沢山美果子
報告2. 歴史のなかの「生存」の仕組み			
—1930~60年代前半の東北地方を主対象にして—		横浜国立大学	大門正克
報告3. 「福祉」への歴史的アプローチ			
—近世・近代移行期のイギリスを事例として—		北海道大学	長谷川貴彦
コメント		立教大学兼任講師	大川啓

パネル・ディスカッション③	A 講義棟	A-108	9:00~11:30
満鉄史研究の新地平—帝国主義侵略のなかの満鉄像—			
問題提起		慶應義塾大学	柳沢遊
報告1. 軍事鉄道としての満鉄		長岡大学	児嶋俊郎
報告2. 株式市場のメカニズムと満鉄経営			
—株主とミドルマネージメントからの接近—		慶應義塾大学	平山勉
報告3. 『満鉄調査部神話』はなぜ生まれたのか		京都大学	江田憲治
コメント		国際日本文化センター	井村哲郎
		東京大学名誉教授	石井寛治
司会		香川大学	山本裕

パネル・ディスカッション④	A 講義棟	A-107	9:00~11:30
中間層の形成と変容をめぐる—新興経済国と先進国の比較にむけての試み—			
趣旨説明		大東文化大学	井上貴子
研究動向と問題提起			
1. 新興経済国の中間層研究の動向と問題点—インド—			井上貴子
2. 先進国の中間層研究の動向と問題点—アメリカ—		大妻女子大学	高田馨里
3. 先進国の中間層研究の動向と問題点—ドイツ—		近畿大学	石井聡
ディスカッサント			
東アジアの視点から		九州大学	深川博史
EUの視点から		東京経済大学	小島健
司会		明治大学	須藤功

パネル・ディスカッション⑤	A 講義棟	A-204	9:00~11:30
1932年日銀引受国債発行の再検討—大蔵・日銀・シ団銀行の連携を中心に—			
報告1. 1932年における国債発行方式の転換プロセス		甲南大学	永廣 顕
報告2. 国債引受シンジケート銀行と売りオペ		麗澤大学	佐藤 政 則
報告3. 日銀引受国債発行における市場と財政の論理		大妻女子大学	伊藤 正 直
討論者		明治学院大学	神山 恒 雄
		日本大学	岸 田 真
司会		首都大学東京	山崎 志 郎

自由論題 12:50~17:10 (休憩:15:20~15:30)

第1会場 A講義棟 A-103

1. --- (12:50~13:40 空き時間) ---
2. トルーマン政権期の財政金融政策構築過程 13:40~14:30
-国際金融的側面からの「アコード」の再検討- 慶應義塾大学大学院 土橋 康人
司会 金城学院大学 大橋 陽
3. ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立と西ドイツ 14:30~15:20
-カルテル・企業集中問題をめぐって- 東京大学大学院 田中 延幸
司会 横浜国立大学 石山 幸彦
4. ウェップ夫妻は『労働組合主義の歴史』をいかに書いたか 15:30~16:20
司会 佛教大学 藤井 透
福井工業高等専門学校 廣重 準四郎
5. フランス植民地経済団体史序説 16:20~17:10
-フランス植民地帝国の視角・史料の再検討- 北海道大学 高井 哲彦
司会 東京経済大学 小島 健

第2会場 A講義棟 A-104

1. 中国におけるユダヤ難民居住地区設定問題 12:50~13:40
-米国資本導入工作をめぐる日本軍部内の対立- ルーヴアン大学大学院 横畑 由希子
司会 首都大学東京 山崎 志郎
2. --- (13:40~14:30 空き時間) ---
3. 広州市商会の選挙騒動-1930年代商人組織と政府間関係- 14:30~15:20
北海道大学大学院 張 集 敏
司会 下関市立大学 飯塚 靖
4. 近世ブランデンブルクの農場領主制と低湿地開発 15:30~16:20
山形大学 山崎 彰
司会 慶應義塾大学 飯田 恭
5. 東ドイツ南部地方における集団農場の存続問題 (1952-1968年) 16:20~17:10
-チューリンゲン地方の事例からみる不可逆性- 福島大学 菊池 智裕
司会 東京農業大学 谷口 信和

第3会場 A講義棟 A-108

1. 1920、30年代満州における煙草企業の競争と煙草市場 12:50~13:40
北海道大学大学院 曹 建平
司会 岡山大学 松本 俊郎
2. 「満州国」と水利問題-撫順県を事例に- 13:40~14:30
慶應義塾大学大学院 ドルネッティ・フィリッポ
司会 和歌山大学 三品 英憲
3. 日満実業協会の活動-日満間の「貿易問題」を巡って- 14:30~15:20
神戸大学 兒玉 州平
司会 啓明大学校 金 明 洙

4. 「満州国」期における奉天の工業化と中国資本 15:30~16:20
 大連理工大学 張 曉 紅
 司会 広島大学 張 楓
5. 中国満洲地域の対外分業構造の研究—植民地期を中心に— 16:20~17:10
 京都大学 堀 和 生
 司会 名城大学 谷ヶ城 秀 吉

第4会場 A講義棟 A-107

1. 就業選択としての零細小売店主 12:50~13:40
 —戦後における「継承」と「独立」を中心に— 京都大学大学院 林 彦 櫻
 司会 東京大学 谷 本 雅 之
2. 近世漁村における死亡クライシスの実態 13:40~14:30
 —紀伊国海土郡を事例として— 京都大学大学院 池 本 裕 行
 司会 京都産業大学 山 内 太
3. --- (14:30~15:20 空き時間) ---
4. 現代住宅問題と住宅市場論の方法 15:30~16:20
 —2000年代グローバル住宅ブームにふれつつ— 和歌山大学 大 泉 英 次
 司会 駒澤大学 瀬戸岡 紘

第5会場 A講義棟 A-204

1. 戦間期養蚕地帯における耕作地主経営 12:50~13:40
 —長野県下伊那郡松尾村G家を事例に— 東京大学大学院 棚 井 仁
 司会 宇都宮大学 大 栗 行 昭
2. 「エネルギー革命期」における石炭鉱業合理化対策の展開 13:40~14:30
 —常磐炭田茨城を事例として— 新潟大学大学院 平 将 志
 司会 九州大学 宮 地 英 敏
3. レーヨン(人絹) 研究から工業化への道 14:30~15:20
 —クラレの人絹生産に即して— 岡山大学大学院 藤 本 雅 之
 司会 信州大学 橋 本 規 之
4. 戦前日本における階層的組織の形成 15:30~16:20
 —鐘淵紡績会社兵庫工場の事例— 秀明大学 結 城 武 延
 司会 京都大学 渡 辺 純 子
5. 高度成長期後半の金型製造業における外注取引関係の形成 16:20~17:10
 首都大学東京 平 山 勉
 司会 慶應義塾大学 植 田 浩 史

※会場各報告開始時間

第1報告 12:50~、第2報告 13:40~、第3報告 14:30~、第4報告 15:30~、第5報告 16:20~

※アフターセッション A講義棟A-106、A-203
 自由論題報告終了後、報告者のご議論いただけます。

第2日 10月20日(日) 【受付 9:00~】

共通論題

A講義棟 A-101

9:30~15:00

職業能力と教育
—経済史と教育学の対話—
Vocational Ability and Education:
Dialogue between Economic History and Pedagogy

司会 中央大学 清水克洋
下関市立大学 木村健二

趣旨説明 9:30~ 9:40

獨協大学 市原博

報告 9:40~11:10

1. 1930年代後半における熟練工養成政策の展開

大阪大学 沢井実

2. 養成工と高校卒ブルーカラーの代替と補完
—戦後日本の高度成長期を中心に—

札幌学院大学 大場隆広

3. 1970年代における高等学校職業学科政策の転換の背景を問い直す*

東京大学 本田由紀

*この報告の内容には、東京大学大学院博士課程の堤孝晃・中川宗人両氏との共同研究の成果が含まれている。

コメント 11:10~11:40

静岡大学 松田紀子
中央大学 関口定一

(休憩 11:40~13:00)

討論 13:00~15:00

【会場への交通案内】 下関市立大学 〒751-8510 山口県下関市大学町2-1-1

★以下の(1)に、(2)あるいは(3)のいずれかを組み合わせてください。

■下関駅、新下関駅までのルート(1)

【飛行機ご利用の場合】

1) 北九州空港(東京便のみ)ご利用の場合

1 スターフライヤー便ご利用の場合：北九州空港から完全予約制(事前予約制)の乗り合いタクシーを利用すれば、約70分で下関市立大学まで着きます(1000円)。最も便利で、安価な方法です。但し、インターネットないしお電話による前日までの事前予約が必要ですので、ご注意ください。詳しくは、以下のサイトをご覧ください

(<http://www.starflyer.jp/checkin/shinkitakyusyu/taxi.html>)。

2 JAL便ご利用の場合：空港連絡バス(直通)で小倉駅まで行き(約40分)、下関行のJR在来線に乗車(約16分)。→下関駅から(2)のルートへ(全体で約110分)。

2) 宇部山口空港ご利用の場合

空港連絡バスで「下関駅」まで乗車(約75分)→下関駅から(2)のルートへ(全体で約120分)。

3) 福岡空港ご利用の場合

福岡空港から地下鉄でJR博多駅へ(5分)。博多駅で、新幹線に乗り新下関駅下車(30分)[基本的に1時間に1本の「こだま」しか停車しません。ご注意ください]。→新下関駅から(3)のルートへ。

【新幹線ご利用の場合】

1) 新下関駅ご利用の場合[基本的に1時間に1本の「こだま」しか停車しません。ご注意ください]。→新下関駅から(3)のルートへ

2) 小倉駅ご利用の場合 小倉で下関行のJR在来線に乗り換え(16分)→下関駅から(2)のルートへ。

■下関駅からのルート(2)

1) 下関駅からJRを利用する場合

山陽本線、山陰本線のいずれかに乗り、幡生(はたぶ)駅で下車(5分)。そこから徒歩20分(ルートについては、地図参照)。

2) 下関駅からバスを利用する場合

駅前のバスプール「3番のりば」から、サンデンバス「山の田循環」「新垢田行」「吉母校行」「川棚温泉行」に乗り、「山の田」で下車(約25分)。そこから徒歩3分。

■新下関駅からのルート(3)

1) タクシーで大学へ(約10分、1300円程度)。バスの便数が少ないので、タクシーがおすすです。

2) サンデンバス「川中豊町線」に乗車、「大学町二丁目」で下車(約16分)。徒歩1分。

★サンデンバスの時刻、停留所情報については、下記のサイトをご覧ください。

<http://busdayo.jp/sanden/>

【キャンパス・会場案内図】